

合成カルシトニン誘導体制剤

劇薬・処方箋医薬品<sup>①</sup>

# エルカトニン筋注10単位[F]

エルカトニン注射液  
ELCATONIN intramuscular injection

日本標準商品分類番号

873999

承認番号 22700AMX00022

薬価収載 2015年1月

販売開始 1994年7月

貯法

室温保存

使用期限

外箱に表示(3年)

注) 注意—医師等の処方箋により使用すること

**【禁忌(次の患者には投与しないこと)】**  
本剤の成分に対し過敏症の既往歴のある患者

**【組成・性状】**

販売名	エルカトニン筋注10単位「F」
有効成分	日局 エルカトニン
含量	10エルカトニン単位
容量	1 mL
添加物	ベンジルアルコール 11.5mg 等張化剤 pH調整剤
pH	5.0~6.5
浸透圧比(生理食塩液に対する比)	約1
色調・性状	無色澄明な液
剤形	注射剤(アンプル)

**【効能・効果】**

骨粗鬆症における疼痛

**【用法・用量】**

エルカトニンとして、通常成人には1回量10エルカトニン単位を週2回筋肉内注射する。なお、症状により適宜増減する。

**【使用上の注意】**

**1. 慎重投与(次の患者には慎重に投与すること)**

- (1) 発疹(紅斑、膨疹等)等の過敏症状を起こしやすい体質の患者
- (2) 気管支喘息又はその既往歴のある患者〔喘息発作を誘発するおそれがある。〕

**2. 重要な基本的注意**

- (1) 本剤はポリペプチド製剤であり、ショックを起こすことがあるので、アレルギー既往歴、薬物過敏症等について十分な問診を行うこと。

※※(2) 本剤の投与は、6ヵ月間を目安とし、長期にわたり漫然と投与しないこと。(「9. その他の注意」の項参照)

**3. 相互作用**

**併用注意(併用に注意すること)**

薬剤名等	臨床症状・措置方法	機序・危険因子
ビスホスホン酸塩系骨吸収抑制剤 パミドロン酸二ナトリウム水和物等	血清カルシウムが急速に低下するおそれがある。高度の低カルシウム血症があらわれた場合には投与を中止し、注射用カルシウム剤の投与等適切な処置を行うこと。	両剤のカルシウム低下作用により、血清カルシウムが急速に低下するおそれがある。

**4. 副作用**

本剤は使用成績調査等の副作用発現頻度が明確となる調査を実施していない。

**(1) 重大な副作用(頻度不明)**

※※1) ショック、アナフィラキシー：ショック、アナフィラキシーを起こすことがあるので、観察を十分に行い、血圧低下、気分不良、全身発赤、じん麻疹、呼

吸困難、咽頭浮腫等の症状があらわれた場合には投与を中止し、適切な処置を行うこと。

- 2) テタニー：低カルシウム血症性テタニーを誘発することがあるので、症状があらわれた場合には投与を中止し、注射用カルシウム剤の投与等適切な処置を行うこと。
- 3) 喘息発作：喘息発作を誘発することがあるので、観察を十分に行い、症状があらわれた場合には投与を中止し、適切な処置を行うこと。(「1. 慎重投与」(2)の項参照)
- 4) 肝機能障害、黄疸：AST(GOT)、ALT(GPT)、Al-Pの上昇等を伴う肝機能障害、黄疸があらわれることがあるので、観察を十分に行い、異常が認められた場合には投与を中止し、適切な処置を行うこと。

**(2) その他の副作用**

	頻度不明
過敏症 <sup>①</sup>	発疹、じん麻疹
循環器	顔面潮紅、熱感、胸部圧迫感、動悸、血圧上昇、血圧低下
消化器	悪心、嘔吐、食欲不振、腹痛、下痢、口渇、胸やけ、口内炎、腹部膨満感
神経系	めまい、ふらつき、頭痛、耳鳴、視覚異常(かすみ目等)、しびれ感、口内しびれ感
肝臓	AST(GOT)、ALT(GPT)の上昇
電解質代謝	低ナトリウム血症、低リン血症
注射部位	疼痛、発赤、腫脹
その他	そう痒感、頻尿、浮腫、咽喉部異和感(咽喉部ハツカ様爽快感等)、発熱、悪寒、脱力感、全身けん怠感、発汗、赤血球減少、ヘモグロビン減少、BUN上昇、Al-P上昇、乳房肥大、乳房痛、あくび、尿白濁

注) このような症状が発現した場合には、投与を中止すること。

**5. 高齢者への投与**

一般に高齢者では生理機能が低下しているので用量に注意すること。

**6. 妊婦、産婦、授乳婦等への投与**

妊婦又は妊娠している可能性のある女性及び授乳中の女性には治療上の有益性が危険性を上回ると判断される場合にのみ投与すること。〔妊婦、産婦、授乳婦等への投与に関する安全性は確立していない。また、動物実験(ラット)で、血清カルシウムの急激な低下、テタニー様症状の発現及び乳汁分泌量が減少し、新生児の体重増加の抑制が報告されている。〕

**7. 小児等への投与**

- (1) 低出生体重児、新生児、乳児、幼児又は小児に対する安全性は確立していない(使用経験が少ない)。

※(2) 低出生体重児、新生児に使用するには十分注意すること。〔外国において、ベンジルアルコールの静脈内大量投与(99~234mg/kg)により、中毒症状(あえぎ呼吸、アシドーシス、けいれん等)が低出生体重児に発現したとの報告がある。本剤は添加剤としてベンジルアルコールを含有している。〕

## 8. 適用上の注意

- (1) **筋肉内注射時**：筋肉内注射にあたっては、組織・神経等への影響を避けるため、下記の点に配慮すること。
- 1) 神経走行部位を避けるよう注意すること。
  - 2) 繰り返し注射する場合には、例えば左右交互に注射するなど、注射部位を変えて行うこと。
  - 3) 注射針を刺入したとき、激痛を訴えたり、血液の逆流をみた場合には、直ちに針を抜き、部位を変えて注射すること。
- (2) **アンプルカット時**：本品はワンポイントカットアンプルであるが、アンプルのカット部分をエタノール綿等で清拭してからカットすることが望ましい。

## 9. その他の注意

- ※(1) 類薬であるカルシトニン（サケ）の経口剤及び点鼻剤を用いた海外臨床試験（投与期間：6ヵ月～5年）のメタアナリシスにおいて、がんの発生割合はカルシトニン（サケ）群では4.2%（254/6,105例）、プラセボ群では2.9%（135/4,687例）（リスク差1.0% [95%信頼区間0.3, 1.7]）であったとの報告がある。<sup>1) 2)</sup>
- (2) ラット（SD系）に1年間大量皮下投与した慢性毒性試験において、下垂体腫瘍の発生頻度の増加がみられたとの報告がある。
- (3) マウスに92週間大量皮下投与した癌原性試験において、癌原性はみられなかったとの報告がある。

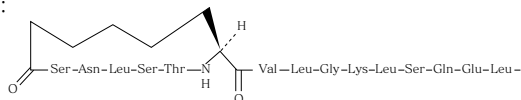
## ※【薬効薬理】

エルカトニンは、カルシトニンの安定化誘導体で、生体内においてカルシトニン同様の血清カルシウム低下作用、骨吸収抑制作用を示す。破骨細胞のカルシトニン受容体に結合し、サイクリックAMPを介して骨吸収抑制作用を発現すると考えられている。また、機序は明確ではないが骨形成促進作用を有することも示唆されている。<sup>3)</sup>

## 【有効成分に関する理化学的知見】

一般名：エルカトニン（Elcatonin）

構造式：



分子式：C<sub>148</sub>H<sub>244</sub>N<sub>42</sub>O<sub>47</sub>

分子量：3363.77

性状：白色の粉末である。

水に極めて溶けやすく、エタノール（95）に溶けやすく、アセトニトリルにほとんど溶けない。

吸湿性である。

水溶液（1→500）のpHは4.5～7.0である。

## 【取扱い上の注意】

### 安定性試験

最終包装製品を用いた加速試験（40±1℃、相対湿度75±5%、6ヵ月）の結果、エルカトニン筋注10単位「F」は通常の市場流通下において3年間安定であることが推測された。<sup>4)</sup>

## 【包装】

10エルカトニン単位／1mL 10アンプル、50アンプル

## 【主要文献】

- ※※1) European Medicines Agency. “Assessment report for calcitonin containing medicinal products”.
- ※※2) U.S. Food and Drug Administration. “Background Document for Meeting of Advisory Committee for Reproductive Health Drugs and Drug Safety and Risk Management Advisory Committee”.
- ※3) 第十六改正日本薬局方解説書（廣川書店）C-899（2011）
- 4) 富士製薬工業株式会社 社内資料（安定性試験）

## 【文献請求先】

主要文献に記載の社内資料につきましても下記にご請求下さい。  
富士製薬工業株式会社 富山工場 学術情報課  
〒939-3515 富山県富山市水橋辻ヶ堂1515番地  
(TEL) 076-478-0032  
(FAX) 076-478-0336